

平成30年1月26日

農業技術センター 技術普及部

標 題	西日本トップの普及率「1.9mm選別ふるい目」 島根米の品質向上に効果
------------	-------------------------------------

(ダイジェスト)

西日本でいち早く導入が進む1.9mm選別ふるい目について、各種実証ほの実績を検証したところ、品質向上の効果がみられました。

本県では、第3期戦略プランにおいて、島根米のレベルアップを目的に、出荷調製時に使用する1.9mm選別ふるい目（従来は1.85mm）の導入を進めてきました。

このふるい目の導入は、島根米の品質向上が大きな課題となった平成10年頃より盛んに検討されてきましたが、収量低下への懸念等から進みませんでした。しかし、平成27年度から始まったハード事業「（県）島根の『売れる米づくり』推進事業」及び「JAしまね農業振興支援事業」を契機に導入が進み、その結果、普及率（JA調べ、面積割合）が、JA出荷農家の77%に達しました。また、西日本では、普及率（農水省「平成29年産水稻作況標本筆農家からの聞き取り結果」、農家数割合）が第1位であり、米政策の見直しにより一層の激化が予想される産地間競争を勝ち抜くために、必須のアイテムになっています。

これまで技術普及部は、試験研究や農業普及部と連携して、調査に基づく歩留率（収量：1.9mm/1.85mm）や品質向上効果の説明等ソフト面の役割を担い、生産者に対し導入に向けた理解促進を図ってきました。

この度、その効果について、本年度、農業普及部や技術普及部が行った各種実証ほ（うるちの奨励3品種）の実績を検証したところ、以下の結果となりました（表1）。

- ・ 検査等級が向上
- ・ 乳白粒等の未熟粒が減少し、整粒比率が向上
- ・ タンパク質含有率が低下し、食味値が向上

また、「つや姫」については、モデル品種に位置付け、県全体で、このふるい目に対応した栽培技術の確立を主な目的とした実証ほを設置してきましたが、品質向上効果に加え、高い歩留率であることを確認しました。

こうした「つや姫」の結果は、品種のポテンシャルはもとより、水管理や施肥法による過剰分けつの抑制、土壌改良剤（鉄、ケイ酸等を含む）の施用等による登熟向上を強く意識して取り組んだ成果と言えます。

今後は、年次変動の確認とともに、「つや姫」で取り組んだ栽培技術を、他の品種へ応用していきます。

表1 1.9mm選別ふるい目の効果

品質	検査等級	3品種計	つや姫
		1段階↑	同
穀粒判別 (%)	整粒	2.5	2.4
	胴割粒	0.0	0.0
	乳白粒	-0.7	-0.7
	基部未熟粒	0.1	0.1
	腹白未熟粒	-0.2	-0.3
	青未熟粒	-0.4	-0.5
	その他未熟粒	-0.9	-0.6
タンパク質含有率（乾物%）		-0.2	-0.2
食味値		0.9	1.4
収量	1.9mm歩留率（%）	96.0	97.0

※「コシヒカリ」、「つや姫」、「きぬむすめ」の玄米サンプルを分析（実証ほ数：103）

※検査等級は、1上～3下、規格外の10段階評価
穀粒判別は、サタケ穀粒判別器RGQI-10Bにより測定
蛋白質含有率、食味値は、静岡製機TM3500により測定